

ながった幼稚園様バードピア認定地 野鳥調査報告



2023.8.5

太平電機株式会社

ECOひいきプロジェクト

代表取締役社長

樋口公平

ベニイトトンボ産卵

地方創生 SDGs
官民連携
プラットフォーム



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



この資料はCO2を発生しない
電力で作製しました。



エコアクション21
認証・登録番号0000139



太平電機株式会社 ECOひいきプロジェクト

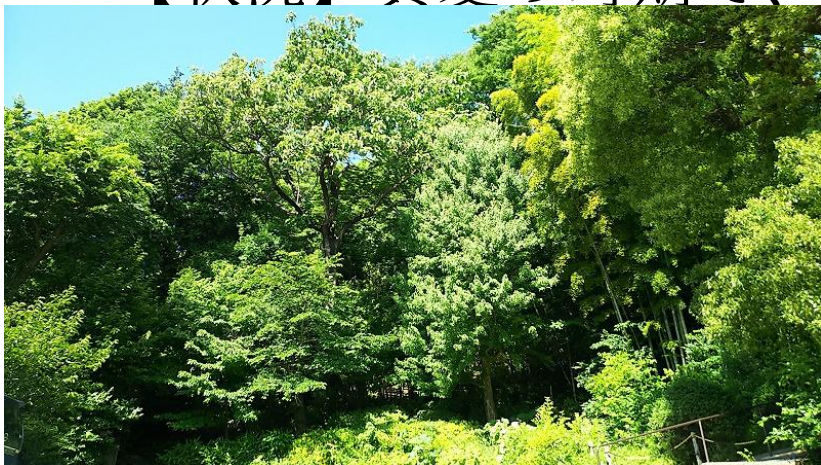
調査時使用したもの

- 自動車1台 . . . 現地訪問用
- 望遠鏡 . . . 20倍
- 三脚 . . .
- カメラ . . . 500mm一眼レフ
- 双眼鏡 . . . 8倍
- 記録用紙
- 筆記具、携帯電話、飲み物持参
- 録音機



裏山エリアの野鳥 ラインセンサス調査

- 【日時】 2023.8.5 8:41～9:01 20分
- 【調査者】 樋口公平、ながつた幼稚園 笠原逸子様
- 【場所】 駐車場→裏山登頂→頂上。同じ道を引き返すコース。
- 【コース】 駐車場→登り口→きり坂→もち坂→さくら坂→もみじ坂→すぎ坂→どんぐり広場(山頂)→同一コースを下る(下りは上りに記録ない種のみ)
- 【調査法】 ラインセンサス法→時速1キロ程度の徒歩、前左右上空に出現する野鳥の姿と声を確認し種類と数を記録。
- 【状況】 真夏の時期で、繁殖活動は終盤で囀りも少なく、野



ビオトープエリア 定点調査

- 【調査法】 エリア内に立ち、いる野鳥、飛来する野鳥の種類、行動を声、姿を確認し記録した。（基本は数は記録しないが同時複数確認した場合は記した）
- 【日時】 2023.8.5 9:05～10:05 60分
- 【調査者】 樋口公平、ながつた幼稚園 笠原逸子様
- 【場所】 エリアの北側建物付近に立ち調査。
- 双眼鏡、望遠鏡、カメラを使用し野鳥の種類と行動を調査



ビオトープ



定点から樹冠上空

調査結果 一覧表

日付	鳥類目録7版 順	2023.08.05							
累計種数	科	園敷地内確認種	裏山エリア	裏山センサス確認数	ビオトープエリア	留/夏/冬	主な利用	環境省RL	神奈川県RL
1	ハト科	キジバト	○	1	○	留鳥	林		
2	タカ科	ツミ	○	1		留鳥	林		絶滅危惧II類
3	カラス科	オナガ	○	3		留鳥	林		
4	シジュウカラ科	シジュウカラ			○	留鳥	林内/餌台		
5	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	4	○5	留鳥旅鳥	林		
合計	5	5	4	9	3				
外来種	チメドリ科	ガビチョウ	○	1	○				
	インコ科	ワカケホンセイインコ			○				

裏山4種9羽 ビオトープ域3種類

全域合計5種類

調査後の報告 裏山のラインセンサス調査考察

【考察】

- 裏山では4種が確認できた。今までで一番少ない。
- 全種合計9羽で、今までで一番少ない。
- カラ類、メジロ、エナガ、コゲラなどが確認できなかったことが、種数、数の減少に影響している。
- 盛夏で気温が高いことも影響していると考えられる
- ツミが生息していることも影響していると考えられる
- 繁殖期がほぼ終了し、キジバト以外の囀りは無かった。
- キジバトは繁殖期が長く、囀りが聞こえた
- ツミは前回に続き確認。繁殖したペアか幼鳥の可能性あり

ツミは冬季の2月、繁殖期の6月に続き、今回8月も確認できた。
生態系の頂点であるツミが通年生息できることは、餌である小型鳥類が豊富な環境が保たれているといえる

調査後の報告 ビオトープエリア定点調査考察

- ビオトープ域では合計3種が確認できた。今までで一番少ない。
- 盛夏で高温が続き、野鳥の出現に影響している。口を開いて体温を少しでも調整しようとしているヒヨドリが確認された。
- ヒヨドリは同時に5羽が飛来し林に入るのを確認できた。そのうち1羽が確認できる位置にとまり撮影した。(写真上段)
- 頭部、顔に幼羽が残っており、口内が赤く、幼鳥と確認できた。
- まだ渡る時期ではなく、幼鳥を連れた家族単位の可能性がある。
- ビオトープを利用(水飲み、水浴び)する野鳥は見られなかった。

ヒヨドリ幼鳥



写真拡大



ヒヨドリの繁殖が確認された。通年生息しており、吸蜜により植物の受粉や実の採食から種の散布に役立っている。またツミなどの猛禽類の餌にもなっており、生態系の中で重要な役割を果たしている